

くろまるおどり
黒丸踊 無形民俗文化財(国選択)

選択年月日 昭和48年11月5日
所在地 大村市黒丸町
保護団体 黒丸踊保存会

文明6年(1474),有馬^{たかずみ}貴純に敗北した大村領主大村^{すみこれ}純伊が,流浪7年の末大村に帰郷したことを住民が喜び,数々の祝典を催した時,郡村黒丸郷に住む中国浪人法養が踊りを郷民に伝えたのが黒丸踊りであるといわれている。

出演者は武士姿の子供の踊子8人,花籠^{かこ}4人,紺の法被,手甲脚絆,豆絞りの鉢巻姿で前に大太鼓を抱き,背中にホ口の板に十数貫の重量の大花籠を負っ

ている。「大薩摩黒丸踊」と書いた大旗持2人,その他に大太鼓・鉦・三味線・笛・鼓・地太鼓などの囃子方がつく。「アルワー・エイ」の掛声とともに踊り手は位置につき,囃子方の奏楽に合わせて,花籠を大きく揺るがして踊りの輪は大きく広がり,大薩摩にふさわしい勇壮華麗な踊りを展開していく。

なお,昭和32年10月29日に県指定無形民俗文化財の指定も受けている。

